

平成22年度宇都宮市学習と生活についてのアンケート（宇都宮市立清原北小学校6年）

■分析と今後の指導上の工夫

- ・ 「勉強が好きですか。」の問いに対して肯定割合が6割を切っており、問題である。教科ごとに見ると、社会、算数、理科の肯定割合が低い。一方、「その教科は将来のために大切だと思うか。」の問いには、その3教科も8割以上（算数では10割）が肯定している。さらに、95%の児童は「授業は分かる」と答えている。これは、思春期に入った児童の心理を反映しているものと思われる。教師は、より魅力的な授業への授業改善や効果的な課題の与え方を行う必要がある。
平日の家庭での学習時間は「1時間ぐらい」が37%で、それ以上を合わせて84%なのは妥当と思われる。昨年度（5年時）は、ここに該当した児童が6割であったことを考え合わせると、児童の学習時間は増加しており、家庭学習の習慣が定着してきたと思われる。
- ・ 「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」「将来の仕事についての希望をもって学習している」の問いに対していずれも肯定が、昨年度は6割程度であったが、今年度は8割に上がってきている。中学への進学も間近に控え、学習や将来について前向きに考えるようになったと思われる。「学習しているいろいろなことが分かることはうれしい」「自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う」がともに100%肯定なのも児童の健全さを物語っており、教師は家庭と連携して児童をあたたく支援していきたい。
- ・ 「学校で先生や友達にあいさつをしているか」については100%が肯定しているが、教師の観察では、声の大きさや相手より先にあいさつできるかななどで、決して満足な実態ではない。学校全体でも重点項目にしているところであり、継続的な指導をしていきたい。
- ・ 読書については、平日に2時間する子が一人いる一方、ほとんど読まない子が4割いる。休みの日には2時間の子が一人、1時間の子が4人見られるようになるが、ほとんど読まない子は依然4割いる。授業で関連する本を紹介するほか、授業以外の場でも、読書の楽しさを伝えられる場面を増やしていきたい。司書教諭や放課後活動担当者への協力も仰いでいきたい。
- ・ 「1日にどれくらいテレビ、ビデオ、DVDを見ていますか。」「1日にどれくらいテレビゲームやパソコンをしていますか。」の問いに、テレビゲームの最長は「1時間半」（2人）だが、テレビのほうは「3時間以上」が4割もいる。「2時間」（3人）「2時間半」（2人）も結構おり、全体に「見すぎ」といえる。休日になると、その時間はさらに増える。健康面からも、家庭と連携して指導していく必要がある。
- ・ 生活習慣については、「寝る時間」が「12時ごろ」（1人）「11時ごろ」（5人）「朝食をとっていない」（1人）などが問題である。個別指導の必要がある。
- ・ 「自分やみんなのためになることは、つらいことでもがまんしてやろうとしている」「だれに対しても思いやりの心を持って接している」「学校での役割や係の仕事に責任を持って取り組んでいる」など、「まああてはまる」が一番多い答で、「とてもよくあてはまる」がそれよりも少ない。悪い状態とはいえないが、もう一歩の高みを目指させたい。